

## 2013年アメリカ産ドライアップル市況



アメリカのリンゴ生産量は、世界最大の生産国である中国に次ぐ世界第2位となっており、約470万ショートトン(2008~2012年平均)収穫されています。主に生鮮用として使用され、全体の66%を占めています。次いでジュース類(14%)、缶詰製品(12%)が挙げられ、乾燥品は2%のシェアとなります。

米国農務省の報告によりますと、昨年は東部地区、中西部地区で遅霜の被害が発生し、特に主要産地であるミシガン州では約90%減となりましたが今期は昨年のような大きな被害も無く、昨年比114%の518万ショートトンになるとの予想です。特にミシガン州のある中西部地区では昨年比463%となり、過去5年の収穫量と比較しても豊作型となる見込みです。

アメリカ産リンゴの生産量

(単位:ショートトン)

	2008	2009	2010	2011	2012	2013(予想)
東部地区	1,236,000	1,293,000	1,199,000	1,162,000	878,000	1,182,000
中西部地区	450,000	720,000	416,000	607,000	131,000	748,000
西部地区	3,131,000	2,840,000	3,026,000	2,941,000	3,522,000	3,247,000
アメリカ全体	4,817,000	4,853,000	4,641,000	4,710,000	4,531,000	5,177,000

昨年は減産の影響で大幅な値上げとなりましたが、今年は豊作型である状況から現地価格は値下げとなる予想が見込まれます。

しかしながら昨年から為替相場が円安に推移している状況から、現地価格の値下げが製品価格へのどの程度影響するかは間もなく提示される現地オファー価格次第となっています。